

平成27年度 事業報告

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

1 概 要

平成27年度は、昨年につき2人の日本人研究者がノーベル賞を受賞し、また、スポーツ界では、ラグビー日本代表のW杯における歴史的3勝や、羽生選手によるフィギュアスケート世界記録更新などの明るい話題もありましたが、阿蘇山など全国で八つの火山の噴火、豪雨による鬼怒川堤防の決壊など、昨年同様自然の脅威を痛感させられた一年でもありました。

また、14年連続で減少していた交通事故の死者が平成12年以来の増加に転じ、その内高齢者の率が統計開始以来最高の54.6%になりました。

一方、経済面においては、世界的な原油安、中国経済の下振れなどの影響を受け、日本経済も足踏み状況に陥り景気の回復力は力強さを欠き、地方経済においても、訪日外国人の爆買いに伴うインバウンド需要に潤う地域と、輸出型製造業の不振が色濃く表れた地域に二極分化の様相を呈した年でもあった。

このような状況下、当センターの平成27年度事業実績は、対前年度比で受託件数は38件増加しましたが契約額は89万5千円減少しました。

経常収益合計では、SP事業収益が無くなったこと等により昨年度実績を152万円下回りましたが、経常費用も昨年度実績を160万円下回り、当期経常増減額は当初予算額を323万3千円上回る68万6千円のマイナスとなりました。

マイナス額が大幅に縮減されたとはいえ、今後も事業を取り巻く環境は厳しいものと予想され、安定した財政運営を推進し、「自主・自立・共働・共助」の基本理念の下、今にも増して多様なニーズに対応できる組織作りに向け、会員・役職員一丸となった総力の結集に努めます。

以下、平成27年度において実施した事業の実績概要を報告いたします。

2 事業内容

(1) 正会員の状況《公1》〔1〕4-(1)・(4)

平成27年度末の在籍会員数は300人(男性182人、女性118人)で、前年度末に比べ31人の減となりました。

新規入会者は23人(男性19人、女性4人)、退会者は54人(男性33人、女性21人)となっています。

今後も、入会希望者を対象とした毎月第三木曜日の定期説明会や勸奨チラシの配布など、あらゆる機会を捉えて積極的にシルバー事業をPRし、会員の確保に努め、組織の安定化を図っていきます。

(2) 就業状況《公1》〔1〕4-(3)

年間を通じての就業会員数は、300人中280人で、就業率は93.3%と前年度(87.3%)を6ポイント上回りました。

男女別の就業率は、男性91.8%、女性95.3%となっています。

また、就業延人員は31,840人で、前年度に比べ741人減少しました。

今後も、就業分野の開拓・拡大を図ると共に、就業する会員の適性等を把握分析し、就業率の向上に努めていきます。

(3) 受注状況《公1》〔1〕4-(3)

平成27年度の受託件数は4,307件で、対前年度比101%、件数にして38件の増となりました。これを職群別で見ると、除草、清掃、草刈等の「一般作業群」が2,677件(全体比62.2%)、剪定、襖・障子の張替え等の「技能群」が921件(全体比21.4%)、福祉家事援助、家庭内清掃等の「サービス群」が412件(全体比9.6%)となっており、この3職群の合計は総受注件数の93.2%に達している状況です。

受託契約金額は、142,353千円で対前年度比99.4%、金額にして約89万5千円の減となり、依然として減少傾向が続いております。

発注者別の構成比では、公共事業が42,908千円(公民比30.1%)、民間事業が99,445千円(公民比69.9%)と、若干ですが公共事業のウエイトが高まる状況となっております。

2 事業実施状況

(1) 普及啓発活動《公1》〔1〕4-(1)・(5)

「人生100年時代へ突入」と言っても過言ではないほどの超高齢社会を迎え、社会の第一線を退いた方々がその後の人生を豊かに過ごすためには、高齢者の三種の神器と言われる「健康・収入・生きがい」が必要とされ、高齢者の能力を生かした活力ある社会づくりを目指すシルバー人材センターの役割が益々重要視されてきていますが、未だにその存在が市民に周知されていない状況があります。

そのため、市広報誌への掲載、ホームページの随時更新、会報「シルバーふちゅう」の年2回発行、路線バス車体へのマーキング広告等による普及啓発を実施しました。また、10月の「シルバーの日」には、早朝より府中公園、上下駅・北市民病院周辺等、公共施設の清掃ボランティア活動を実施して、地域のみなさまの理解を深める取組みを行いました。

(2) 安全・適正就業確保《公1》〔1〕4-(2)

安全就業対策については、職群班毎の就業前ミーティングでの意思統一、安全委員・推進員による就業現場への巡回指導等により、会員の事故に対する意識高揚を図り、事故の未然防止に努めてまいりました。

しかし、平成27年度の就業中の事故は、物損事故が2件(前年度1件)、傷害事故も2件(前年度2件)発生しました。

また、会員の安全意識の高揚を図るための、安全就業標語の募集には、6

3人から105作品の応募があり、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を選出しました。

適正就業の確保については、就業の公平性を図るためワークシェアリングを推進し就業率の向上を図りました(93.3%)。また、法令に則った事業推進のため、2事業所の送迎車運転業務を派遣事業に移行しました。

(3) 就業分野の開拓・拡大《公1》〔1〕4-(3)

シルバーセンターが高齢者の受け皿として十分な機能を果たし、地域社会の支え手となるためには、会員の拡大を図ると共に就業分野の開拓・拡大が必要不可欠です。平成27年度の実任件数は前年度を38件上回りましたが、今後も派遣事業の推進等により、就業分野の開拓・拡大に努めます。

(4) 研修会・講習会の取組み《公1》〔1〕3

会員の技能向上を図り就業機会の拡大に資するため、国の委託事業「シニアワークプログラム地域事業」を(公社)広島県シルバー人材センター連合会と連携して実施してきましたが、平成27年度は連合の直轄事業となり、計画していた介護職員初任者研修は受講者不足で中止になりました。

平成28年度は、高齢者活躍人材育成事業として、剪定・刈払機取扱い・安全運転の3講習を予定しています。

【事業報告の附属明細書】

事業報告の附属明細書については、平成27年度事業報告においては、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条に定める「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当するものではありませんでした。